



# 2015-2016年度 広島北ロータリークラブ週報

世界へのプレゼントになろう

国際ロータリー会長 K.R.“ラビ”ラビンドラン 氏  
国際ロータリーテーマ

Be a Gift to the World  
世界へのプレゼントになろう

■会長 山下 正司 ■幹事 上河内 裕司  
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F  
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530  
E-Mail:hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/  
例会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会	2015年11月5日(木)	第2245回
国歌斉唱		
ロータリーソング	「奉仕の理想」	
来客紹介	親睦委員会	
四つのテスト唱和	職業奉仕委員会	
会員誕生月お祝い		
会長時間		
幹事報告		
委員会・同好会報告		
ニコニコ箱		
卓話時間	『新会員卓話』	
	藤原 克実 会員 / 柳井 博 会員	

## 前回の例会 2015年10月29日(木) 第2244回

ロータリーソング	「それでこそロータリー」
来客紹介	親睦委員会
会長時間	
幹事報告	
委員会・同好会報告	
ニコニコ箱	
卓話時間	『賞金王への道の途中』 (公社)日本モーターボート選手会 広島支部 山口 剛 氏

## 会長時間 会長 山下 正司

皆さんこんにちは 来客の皆さんにはようこそお越し下さいました。まず始めに本日の卓話の時間をお願いしています、モーターボート選手の山口様、大変申し訳ないのですが私は一度もモーターボートのレースを見たことが無く、全くの無知ですので、そのところふまえた上で少し詳しくお話頂けるとありがたいと思います。後ほど楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日皆さんにご報告は、先日実施されました広島大学霞ファミリーハウスへのキッズサークルの寄贈の件ですが、23日に現地にて坪内理事・浜本社会奉仕委員長をはじめとし関係者9名で訪問し贈呈式をさせて頂きました。杉町理事



のお手伝いも頂いて翌日の中国新聞の朝刊にも掲載されておりましたのでご覧になられた方も沢山いたのではないかと思います。この時に頂きました感謝状も回覧させて頂きます。

もう一つの報告は25日の地区大会の事ですが、大変多くの会員に登録頂き又前日から下関においてインフォーマルミーティングにも30名近い会員が参加と本当にクラブ行事を楽しんで実践することが出来たのではないかと嬉しく思っております。

又、当日地区大会において、他クラブの会長さん達から先ほど報告のキッズサークルの件で朝刊見たよ。ガンバッテマスネ等の声掛けをいくつか頂き、先ほど披露致しました各賞受賞と合わせて広島北RCの活動を広報出来た事と思います。

最後にいよいよ来週11/3(火)はポリオ撲滅チャリティーマラソンです。参加予定者の方は十分に準備をされて決して怪我のないように完走目指して頑張りましょう。又参加予定の無い方も時間が許せば是非応援に駆けつけて盛り上げて頂けたらと思います。

色んな事業において関係各委員会の皆さんには本当に骨折頂き有難うございます。本年度会長方針に掲げさせて頂きました「楽しんで実践しよう」を実践しましょう。会長時間を 終わります。

## 地区大会表彰披露

地区功労賞 高原 宏之会員



46年岸本会員 / 44年 山本忠男会員(40年以上100%出席者)



地区大会表彰(団体)



2014-15年度RI会長賞  
米山記念奨学会寄付総額賞 地区4位

会報IT委員会 下川委員長

チャリティーマラソンでのカメラ撮影のお願い

財団プログラム委員会 佐々木委員長

11月3日(火)チャリティーマラソン最終案内

社会奉仕委員会 濱本会員

10/23(金)地区補助金事業報告

例会終了後、青少年奉仕委員会と合同で委員会を開催します。

《自主出宝》

山下(正)会員・東会員・上河内会員・吉永会員・藤田会員

山口剛様、広島北RCにお越し頂きありがとうございます。本日のお話し大変楽しみにしています。よろしくお願ひ致します。

山下(正)会員・東会員・上河内会員・吉永会員・藤田会員

25日の地区大会、多くのメンバーの皆様に参加を頂きありがとうございます。正副一同感謝申し上げます。前日のIMFも大変盛り上がりました、楽しい一日となりました。設営についてご尽力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

島本会員・小林会員 山口さん、本日の卓話を楽しみにしています。今後の益々のポートでの活躍を期待しております。

高原会員◇ 地区大会で前年度がハナ補佐の表彰を受け、これも偏に皆様のお陰と感謝しています。

高原会員◇ 地区大会が無事に終わり、皆様と一緒に過ごせた前夜祭も楽しい思い出となりました。

河本会員・中山会員・合田会員・二本会員・佐々木会員 昨年度、当クラブの活動に対し、会員皆様の大きなご協力のお陰を持ちまして「RI会長賞」が先日の地区大会において授与・表彰されました。会員の皆様のご協力で改めて感謝申し上げます。

山田会員 皆様のお陰で22年連続出席をする事が出来ました。

岩森会員 妻の誕生日に美しい花をお届け頂きました。本当に美しく心より喜んでおります。ありがとうございます。

水野会員◆ この度、喜寿を迎え、パスト会長会より過分のお祝いを頂き心より感謝致しております。今後も健康に気をつけてローター活動を続けたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

樽本会員◇ 明日から11/4まで、ヤンマー出張のため「END POLIO NOW 広報活動チャリティーマラソン」に参加出来ずに申し訳ございません。ヤンゴンの地でTシャツを着て応援させていただきます。

久保(豊)会員・島本会員・中山会員・石井会員 私どもコンサル会社DEPSが創立25周年を迎え、セミナーを開催します。時間があればご参加下さい。参加料は無料です。

藤原会員 本日、ご来客者のご紹介で、あつてはならないお客

様のお名前を読み間違ふという失態をしでかしました。大変申し訳ございませんでした。

佐藤会員◇ 予定をすっかり失念しておりました。お約束しておりました皆様申し訳ありませんでした。また、所用により地区大会不参加となり、申し訳ありませんでした。

当日計 35,000円(内、web 10,000円) 累計 533,000円  
★=10,000円 ☆=5,000円 ◆=3,000円 ◇=2,000円

卓話時間

『賞金王への道の途中』

(公社)日本モーターボート選手会  
広島支部 山口 剛 氏

ボートレーサーになるために機械科の学校に入学してモーターのことを勉強しようか迷いましたが、試験を受けるにあたって、全国大会に出場歴があると試験が有利になるという情報



をもらったので、沼田高校の体育科で、器械体操部に入部しました。そこで3年間、全国大会に出ようと思って頑張るわけですが、やはり、体育科ということで素晴らしい選手が集まっていて、その中でその経歴をもらうために僕がやったのは、皆があまり好きでない種目を頑張るということでした。器械体操でいうと、「あん馬」です。「あん馬」というのは、器械体操の競技のなかでもすごく地味な種目なんです。見ていてあまり華がないので、高校生ぐらいだと、みんなあまり練習したがりません。ただ、僕はそこに目をつけて、この種目を頑張るって、この種目で点が取れる選手になって、広島県代表として出られるようになって練習しました。

それで、結果的に国民体育大会に出るわけなんですけども、そのときにずっと思っていたことがありました。そうやって人が苦しいことをやって、さらに華がない種目だったので、そんな自分が嫌だった。なので、ボートレーサーになったら、見ていて迫力のある、華のあるレーサーになれるように、ここからはやっていこうと思って、それでボートレーサーになる選手像というのが、その高校生のときにできました。

その後、高校を卒業して半年後に受かるわけなんですけども、そのときに高校を卒業してすぐ受かればよかったんですけども、なにぶん厳しい試験なので合格することができずに、浪人しながら受けて、結果、3回目で学校に入学することになります。

やっと学校に入って、1年間の訓練でプロになるわけですが、学校はものすごく厳しいところで、1年間 365日、休みの日はほとんどありません。地元に戻るのも、お盆1回だけでした。

まず、朝6時に起きて乾布摩擦から始まり、食事の時間は朝15分、そのまま訓練、ボートに乗ったりして、昼食をとったらまた夕方5時までボートに乗る練習。そのあと、自主勉強とか『モーターボート競走法』とか、いろいろ覚えなないといけないこともあるので、1日に自由時間というのは30分しかない生活を365日経て、無事プロになって、2002年、ボートレース宮島でプロデビューすることとなりました。

そして、プロボートレーサーになってから、新人時代ですね。A1級になるまでに心がけてきたことも、たくさんあります。選手生活というのをどう感じる生活しているのか、分からない方もいると思うので説明させてもらいますと、僕たちレーサーは、まず仕事のレース場に入ると携帯電話とか通信できる機器は全部預けて、1週間の管理生活に入ります。宿舎は全部レース場が用意して、

その宿舎で1週間過ごすわけなんですけども、個室ではありません。だいたい大部屋なので、広島県の先輩選手たちと、4人部屋なら4人布団を敷いて、そこで1週間過ごします。

あと、ボートレースというのは野球とかサッカーなどと違って、コーチや監督はいません。なってから、いろんなことを覚えなければいけません。プロペラを自分で作りますし、プロペラをレース場でたたいて、エンジンに合わせて調整もします。それから、エンジンも自分で分解して、メカニックなことも自分でやります。それから、ターンであったり、操縦技術も自分で覚えなければいけません。ただ、新人が一人でデビューして覚えようと思っても、何をやっていいのか、どうしていいのか分からないので、教えてもらうのは、先輩選手に教えてもらわないといけません。けど、先輩選手も同じレースになれば戦う敵なので、やはり、すぐ教えてくれるわけじゃないんですね。だから、宿舎の生活であったり、普段の生活で、教えてもらえる人間になるかというのが、すごく大切でした。例えば、先輩に飲みに誘っていただいたらすぐに出て行って、一緒にお酒を飲んだら、そのなかで少しだけ仕事の話や話を聞くと、ちょっと教えてもらえたり、宿舎で先輩にコーヒーを入れたり新聞を取りに行ったりしたなかで、少しだけ教えてもらえる。そして、教えてもらったことは、即、実行して、それで自分でどうだったかというのを必ず報告する。

そうすると、先輩はまた次、じゃ、これをやってみろ、あれをやってみろという、少しずつ教えてもらうって、先輩からの技術を引き出す。それが、すごく大切なことでした。

今は自分にもたくさん後輩がいますけども、この報告、連絡、相談というのは、僕は当たり前のことだと思っているんですけども、意外とできない人が多くて、後輩に教えたらそのまま、あれ、どうなったんかなとか、そういうのがたくさんあります。

そうやって、いろんなことを教えてもらって成長していくわけなんですけども、例えば操縦技術、ターンをするときの技術を練習するんですけど、この上達というのは、すごく自分では分かりにくいんですね。なんでもそうなんですけど、上達しているのか上達していないのかというのが、とても分かりにくいです。例えば、自分がターンを練習しているけども、これは正しいのかどうなのか迷っているときに、先輩に言われて気づいたことがありました。

先輩にそういうふうに、僕がうまくなっているか分からないんですけど、どうなんでしょうかって聞いたときに、山口、おまえは毎日鏡を見ているだろと言われて、毎日鏡を見て、自分の顔が変わっているように感じるかというふうに言われました。確かに、自分で毎日鏡を見ても、年を取って老けていっているんですけど、自分で毎日見ていたら、けっこうそれって気づかないんですけど、10年経って、10年前の自分を見たら、年を取ったなって分かるだろう。

ターンというのもそれと一緒に、乗っていてうまくなっているのは、絶対自分では分からない。ただ、後から、その努力を続けることによって、振り返ったときに自分が前よりうまくなっているというのが分かるので、必ず今やっていることは続けるようにというのを、今でも現役で、バリバリで走っていらっしゃる、すごく偉大な先輩がいるんですけども、その先輩に教えていただいて、その新人時代に努力をやり続けるということを教わったのも、今現在、僕がいる位置まで来れた要因だと思っています。

それから、新人時代を経て2年半後にA1級に初めて上がるんですけども、そこから自分が全国区の選手になることになった、ターニングポイントのレースというのが実はありまして、それを紹介さ

せていただきたいと思います。

2008年の新鋭王座決定戦というG1があるんですけども、そのG1というのは選手になってから6年未満の選手しか出られない、新人のなかの1位を決める大会という位置付けをされていて、若手の登竜門、そういうふうに使われているレースでした。その前にも、A1だったんですけども、やはりそのときはまだ中国地区とか九州地区で走っているA1だったので、全国的にはあまり、まだ認知度の少ないレーサーでした。

そのときに優勝して、結果、全国のボートレースを開催する施行者の方々の目に留まるんですけども、そのときの状況というのが、僕の場合、ちょっとほかの人と違ってまして、ここでまたちょっとボートレースの説明をさせていただくんですけども、ボートレースというのはフライングスタート方式という方式を採ってまして、ヨーイドンでスタートするわけではないんですね。

口頭で説明すると分かりにくいかもしれませんが、大きい時計がありまして、ずっと針が動いているんですね。真ん中にゼロと書いてあって、その針がゼロになったときに、見えないスタートラインが設定されているんですけども、ゼロになってから1秒になるまでのあいだに、そこを通り抜けるというスタート方式を採っています。もし、それがゼロになる前に仮想のスリットラインを過ぎてしまうと、僕たち選手は30日の出場停止をくらいます。なぜかという、そうなるって、そこまで売っていた舟券は全部ファンの方に返還するので、それを僕たち選手が代わりに払えと言われましても、もう額が大きすぎて払えませんので、その分、30日休みというふうに、僕たちは罰則をくらいます。

半年ごとに、さっき成績が区切られているって言いましたけども、その半年のうちに1回フライングをしたら30日休みで、もう1回フライングをしてしまうと、次はプラス60日で90日罰則をくらってしまいます。つまり、3カ月レースに出られなくなります。そして、もう1本フライングして、フライング3本ってなると、プラス90日で、計180日出場停止の期間をもらってしまうという状況で、レースをしないといけなくなります。

その新鋭王座決定戦のときに、僕はフライング2本持ちという状況でした。というのは、結果、その新鋭王座決定戦が終わってから90日の休みを控えていたんですね。なので、もしその新鋭王座決定戦で、みんな、ほかの選手も、そこを優勝するためにスタートぎりぎりを狙ってきますので、フライングしてしまうと合計180日休まないといけいないという状況で、レースをしていました。

普通、選手のほとんどは、90日の休みをもらってしまうと、あまりレースができなくなるんですね。スタートも、やはり行くのが怖くなります。なぜかという、やはりそのあとに休みが控えているので、僕たちは走ってなんぼで、賞金を走ってもらっているの、走れなくなると自分の生活ができなくなるというふうに、みんな思うので、基本、そういう状況になると、先輩からも、もうレースはあまりするなというふうに教わりますが、僕はそうではありませんでした。

なぜかという、僕らレーサーは、走る前に必ずオッズというのがあります。自分が何倍かとか、自分の舟券がどれだけ売れているかというのを見るんですけども、僕がフライング2本持ちで、レースは普通ならできないだろうと思っても、やはりお金を賭けてくださっているファンの方がいるんですね。それを、やはり背中に背負って走っているという、僕はもう、それを一番思っただけで、その気持ちだけは絶対に裏切らないし、結局、もう1回フライングして困るのは自分だけの話だし、お金を賭けてくださっているお客さまには一切関係のないことなので、僕はまったくフライングを持っているというふうに、みじんも感じさせないようにレースをして、最後、優勝しました。

その状況で新鋭王座決定戦を優勝したのは、いまだ僕しかないの、それですごく余計に、全国のボートレースの開催施行者の方の目に留まりまして、そこから常にSGやG1を走るトップ50



人のなかに入って、その2008年からレースをすることになりました。

そこからがまた厳しい世界で、1,600人いるうちにA1は300人いるんですけども、そしてさらにピラミッドになったA1のなかでも、けっこう実力差がありまして、今、走っているのはSGやG1ばかりなので、ほとんどその上から、A1のなかのトップ70人ぐらいでレースを回しています。なので、SGやG1というのは実質、ほとんど同じ選手しか走っていないんですね。

その舞台に自分が上がって感じたことは、プロである以上、そのグループに入ってそのなかで落ちないように、そのトップ70のなかに入ったまま切磋琢磨(せつさたくま)することが、どれだけ自分が強くなるかというのが、よく分かりました。

自分を客観的に見て、おそらくランキングをつけるとしたら、今の自分の位置は、だいたい30位から40位ぐらいを行ったり来たりです。勝率1位にたまたまなったり、賞金も稼いでランキングが上に上がったりすることもあるんですけど、客観的に見て、ずっと今までの活躍を考えてきたら、だいたい30位ぐらいなんです。

上に、いつも賞金王決定戦に出るような選手が、やはり15人ぐらいいるんですね。その壁がものすごく高いです。

というのも、そこまで絞られてきた人数なので、もう努力するのは当たり前なので、当たりの努力はみんな当たり前のようにしますし、いかに物事を考えて、人と違った努力をするか、それも結局自分で判断するしかないのです、その努力が合っているのか間違っているのかも分かりません。

そういったなかで、今ずっと走って、悩み、考え、いろんな努力をして、僕の目標は35歳で賞金王になるという目標を立てていますが、その夢に向かって、今やっているところです。

その努力のことなんですけど、一般的な努力というと、何があるかという、まず減量ですね。ボートレーサーは50kgを体重のリミットとされていて、50kgより軽いと重りを背負いますけど、50kgより重いのは自由です。ただ、重いと遅くなりますので、みんな当たり前のように減量します。ボクサーたちと違って、ウエートを測ってから、そのあとご飯を食べていいということではなくて、1年中減量しています。僕は、まだ背が低いので50kgはそこまで厳しいことじゃありませんが、強い選手のなかには、背の高い選手だと173cm、それで50kgで走っている人たちもいますし、そういう選手たちは、もうほとんど何も食べていません、年中。そういうなかでやっています。

あと、プロペラ作りというのもありまして、今は少し変わりましたが、昔はもうプロペラを一から自分で削って、バーナーで伸ばして、たたいてというのも、すべてやっていました。なので、レースとレースの期間のあいだがあっても、その休みの期間は全部プロペラ作りで費やされて、自分の時間というのは基本的にはありませんでした。

その間にターンの練習もしたりするというのは、これはもう当たり前の努力なんです。もう、みんながやっているんで、これをやったから強くなるというわけじゃないんです。だから、人と違った努力を、何をするかというのを考えて、ターンでもいろいろ細かく掘り下げて、どの部分を鍛えていくかというのが大切になってきます。

それから、プロになって、そういう上のグループになって気づいたことなんですけども、そういう努力を努力だと思ってやっているうちは、やはり強くないんですね。やはり、夢中になってそれをやっている人には、勝てません。夢中になって、努力を努力と思わずにやっている人間が、強くなっているんだなと感じています。なので、僕の夢は賞金王なんですけども、あと3年後、35歳までに賞金王になるという目標を二十歳のときに立てて、今現在ボートレーサーとして、日々、努力しています。

今日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。僕自身、実は講演と呼ばれるものは、これが実は2回目、まさか自分が

こういうふうには話をする人間だとも思っていませんでした。なので、今日は本当に講演と呼べるものだったかどうか分かりませんが、こういう機会をいただいて、自分自身も今までを振り返る経験になりましたし、これがこれからの賞金王への道の糧になると思っていますので、今日はどうもご清聴、ありがとうございます。

■GI宮島チャンピオンカップ開設61周年記念■

11月4日～9日

■出席報告 出席委員会

2015年10月29日(木) 会員数 88名

出席 73名 欠席 15名

来賓 1名 来客 1名

10月8日例会出席率 100%

■来客紹介 親睦委員会

山口 剛 様(卓話者)

貫名 賢 様(広島東)

■次回例会 2015年11月12日(木)12:30～

卓話 『なるほど・ザ・END POLIO NOW』

財団プログラム委員会

食事 100万\$(カレー)

※差額はポリオプラスに寄付をします。

ポリオ撲滅広報活動 チャリティーマラソン

11月3日(火・祝)第35回ひろしま国際平和マラソンに総勢28名で参加してきました！5kmビギナーコースと10kmチャレンジコース全員無事完走です！



お疲れ様でした！